

SYNERGY XD Clinical Case Report

右遠位橈骨動脈アプローチにて左前下行枝及び
左回旋枝に一期的に治療を行った症例
 埼玉医科大学総合医療センター
 心臓内科 井上 芳郎 先生



症例;70歳の男性、主訴:労作時前胸部痛

診断名:狭心症

冠危険因子:HT(-)、HL(-)、DM(+) HbA1c 8.6.5程度、喫煙20本

ECG:NSR HR 60bpm、完全右脚ブロック、陰性T波 in III.aVF.

Chest X ray:CTR 53%.

採血:CK 75(MB 88)、Cr 0.71、CRP 0.2、cTnI 0.02、BS 238

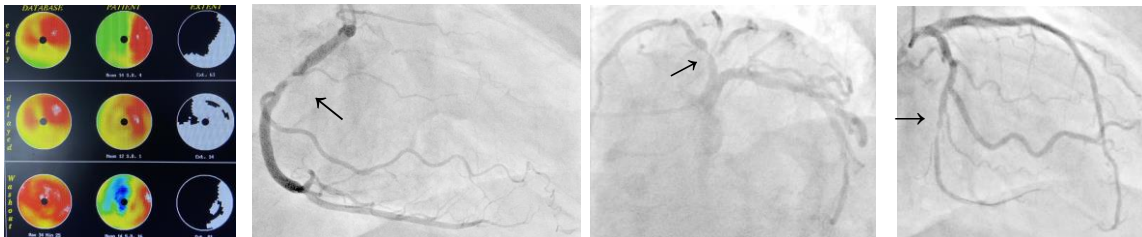
UCG:LV wallmotion:normal、EF 65%(M mode)、LVDdDs=49.2/31.6mm

IVST/PWT=13/10mm、LVH(+)、Valve n.p

運動負荷心筋タリウムシンチ:前壁中隔の虚血

冠動脈造影:RCA:i#1 90%、collaterals to LAD、LAD:#6 99% with delay

LCX:#13 90%.



●PCI to LAD:Target lesion # 6 99%、LCX #13 90%.

Rt-distal radial approach 4Fr glide sheath.

Guiding Catheter: Profit 5Fr,JL3.5.(NIPRO)

Guide Wire: SION (ASAHI INTECC)

Balloon Catheter: Ryurei 2.0x15mm (TERUMO)

Ryurei 2.5x15mm (TERUMO)

Stent: SYNERGY XD 3.0x32mm(Boston Scientific) to LAD #7.

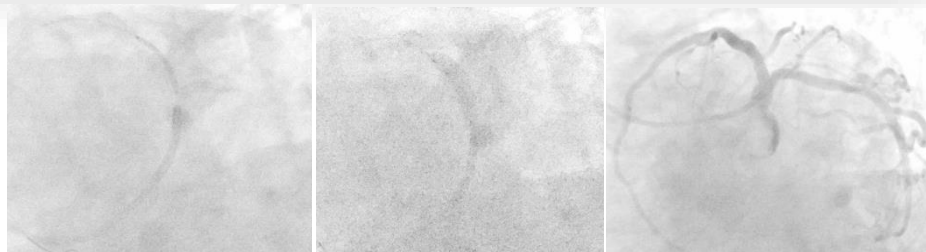
SYNERGY XD 3.5x24mm(Boston Scientific) to LAD #6 just proximal.

SYNERGY XD 2.5x16mm(Boston Scientific) to LCX #13.

IVUS: Alta View(TERUMO)

SYNERGY™ XD

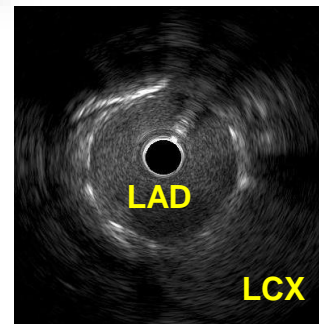
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
 Coronary Stent System



Delivery時

stenting 時

Post stenting



LAD

LCX

<考察>

高いperformanceを期待されるデバイスは、complex lesionやtoughな状況・場面にて使用され評価される場合が多いと想定される。

今回あえてsimple lesionへの余力を持ったDeviceの使用のケースをレポートする。遠位頭骨動脈アプローチ 5Fr slenderにて手技を行なった。右鎖骨下動脈から腕頭動脈にかけて若干屈曲を認めたが、柔軟性に富むステントデザインおよび柔軟性とプッシュビリティのバランスのとれたシャフト性能の効果なのかDeliveryにストレスを全く感じさせなかった。

LAD just proximallyに留置を行なったが、使用されているプラチナ合金は視認性に優れており、慎重を要する位置決め留置に際し有効であった。またストラットが薄く、ステント拡張が非常に均一に拡張し、挙動が安定しており、狙った位置にずれなく留置できた。

非常に滑らかに血管に追従し、スムーズに拡張し病変をカバーする様は、あたかも血管内をコーティングするかの様であると表現しても過言であるまい。

<結語>

①余力を持ったDeviceの使用は、遠位橈骨動脈アプローチ・小径ガイディングシステムでのPCIを安全かつ容易に行える可能性を高くする。

また手技時間の短縮・造影剤量および放射線被曝の軽減に寄与し本症例においてもLAD治療に続いてLCXへの治療も同時に行えた。

②SYNERGY XDは、simple lesion、complex lesion いかなる場面・状況を問わず使用でき、その性能を発揮できるDeviceであろうと期待させられる。